

＜離れ笠＞富士の周りに雲の湧き立つ朝、大きなシロナガスクジラのような離れ笠が現れました。右うしろには子クジラが親に寄り添っています。一方、手前のビオトープあたりの林は遠目に変わらない冬景色です。しかし林の下では昨秋の名残りもまだ留めながら春の微かな気配がするようになってきました。



＜雪化粧＞そのように思っていた矢先の雪です。ただこの雪は夜中に凍ったため朝方には綺麗に雪化粧をしたビオトープが見られました。写真の一つはマガモの泳ぐ池の雪景色です。この池にはマガモが次々に飛んできて 10 羽ほど集まるようになりました。池の広さからすると人口密度 (?) がとても高いのですがそっと眺めていると贅沢な気分になります。もう一つは枯れたガマの雪化粧です。雪とガマのコラボレーションをただ唯ご覧あれ。



＜昨秋の名残り＞年の始めを演出したジュウリョウの赤い実もほとんど見られなくなりました。人通りの近くではまだ沢山の実を残しているイボタノキの黒紫の実もビオトープではすっかり無くなりました。そんな中でヘクソカズラの実もビオトープに限らずあちこちに残っています。小鳥たちにとっては美味しくないのでしょうか。もうひとつ、小鳥の嘴を拒み続ける棘だらけのウツギの実も昨夏からあまり変わりません。春の芽吹きの際にはどうなっているのでしょうか。

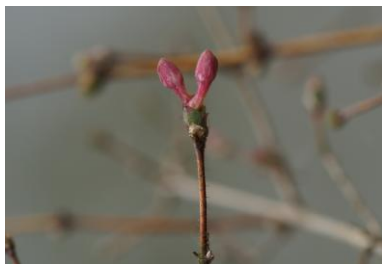


＜ヘクソカズラの実＞

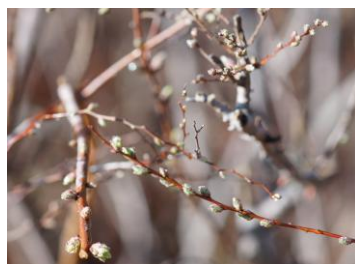
＜春の気配＞運ばれた種から育ったのでしょうか、ビオトープにはビワの若木が 1 本生えていて三つばかり花（花序）をつけています。茶色の毛の帽子を被った小さな白が大きな葉っぱに囲まれているような姿ですからあまり目立ちません。でもよく見ると可愛らしい花なのですね。このような常緑樹があるとはいえ、まだ冬枯れの世界です。そんな中で赤紫の



＜ビワの花＞



＜ウグイスカズラ＞



＜ユキヤナギ＞

芽を見つけてみました。昨春の第 1 号で紹介したウグイスカズラの花芽です。狂い咲きでなければいいのですが。またビオトープの上流のほたる川ではユキヤナギの芽が膨らみ出しています。

(文と写真：松本正勝)

